

10月3日 『ノルウェージャン・スピリット号』 寄港時から開始

いよいよ、国土交通省の共創モデル実証運行事業として採択されたプロジェクトである『クルーズ船寄港時の空白解消とインバウンドタクシー観光のアップデート』が実施段階に入った。

今年5月12日に、私が代表を務める静岡TaaSが提案していた、このプロジェクトが採択され、審査の後、7月12日に補助金交付の決定を受けた。

その後、『清水港クルーズ船ドライバード最適配車プラットフォーム』の眼目となるタクシーへの車載タブレットの設置を9月中旬に終え、10月3日に静岡市の清水港に寄港したノルウェージャン・スピリット号から、この仕組みの稼働を開始した。

あらためてこの車載タブレット設置の意味と役割を、このコラム「団塊耕志録176回（2025年8月24日記）」の引用から確認したい。

- ①現在、清水港においてタクシーや日本版ライドシェアなどの車両が待機している広大な駐車場が、同場所に静岡市海洋地球総合ミュージアムが建設される関係で使えなくなり、待機する場所のみならず、乗り場に向かう待機の順番が分からなくなるので、新たに設置する車載タブレット端末によって順番を確定し、スムーズに運用できるようシステムを組む。
- ②タクシーや日本版ライドシェアなどの車両が枯渇した時、乗車を待つインバウンド客らに、いつ出発できるかの判断材料を、車載タブレット端末による車両の位置や動態によって情報提供をする。
- ③インバウンド客らに乗せた車両がタクシー無線の届かない遠隔地に行った場合の車両位置の把握、さらには事故や故障時の対処、帰還時間のコントロール。
- ④車載タブレット端末のGPS位置情報をトリガーにして、観光地の情報を外国語音声にて提供。インバウンド客の観光体験のレベルアップを図る。

国土交通省共創モデル 実証運行事業が 実施段階に!

アメーバブログを始めました!
<http://ameblo.jp/ykiyono800>



清野吉光氏のコラム 第178回

団塊耕志録

清野 吉光 (きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、印刷関係など様々な職業に従事。1976年 清水市の日の丸交通入社。1980年 静岡市内の事務機器センターに入社。1982年 システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年 代表取締役社長就任。2016年3月 システムオリジン社長退任。クリアフィールド取締役。2021年5月 一般社団法人静岡TaaS代表理事に就任。2025年1月 (株) 静岡TaaSトラベル設立

ツプを図る。
このうち、①については、10月3日時点では「広大な駐車場」に関して、9月からの工事開始予定が、行政側の都合で来年1月からの延期されており、このため待機の順番については従来通りの仕組みで運用されている。
しかし、既に寄港するクルーズ船向けの待機の順番管理システムが稼働しており、車載タブレット設置車両の順番登録の仕組みも実現。来年1月から工事が始まり、現状の仕組みでの運用が不可能になっても対応できるようにはなっている。



②については、チャータータクシー受付専用車両『TaaS (タース) 号』内に設置した、配車センターのサテライトシステムが稼働しており、各車両の位置や動態がリアルタイムで確認でき、英語乗務員やアプリ乗務員の把握も出来る。これにより、インバウンド客の希望に応じて、出発時間や希望する乗務員での配車も可能な仕組みになっている。
また、埠頭現場での営業時において配車スタッフのスマートフォンからでもリアルタイムな車両の位置と動態の把握が可能であり、さらに受付のタース号に設置された車載ディスプレイによっても、インバウンド客自身が車両の位置や動態を確認できるようになっている。
③については、実際にインバウンド客による、遠方の富士宮や神奈川県の箱根、山梨県の河口湖、富士山の五合目などを目的地とした、タクシーチャーターの注文が発生しており、クルーズ船の出港時間までに帰着できるよう管理ができるようになっている。
現時点(10月26日)までには、幸いなことに発生していないが、車両の故障や事故発生時に、遠方でも位置情報が把握できるので、迅速な対処が可能と思われる。
④については、株式会社OTONOのシステムを新規に導入し、GPS位置情報に基づいて、車載タブレットから英語の観光案内がされるよう



になっている。
また、車載タブレットの機種によって対応できない場合は、インバウンド客のスマートフォンからQRコードによって観光案内のウェブサイトにアクセスし、同様のサービスを受けられるようになっていく。

クルーズ船インバウンド客のデータの収集と解析

今回の共創プロジェクトのもうひとつの課題である「インバウンドタクシー観光のアップデート」のため、インバウンド客に関する情報の収集や解析、さらには英語に堪能な人が多い日本版ライドシェアの乗務員への教育などが、来

年2月末のプロジェクト終了まで実施される。

クルーズ船自体の清水港への寄港は、今年は11月で一旦終了し、来年3月からの再開となるが、来年度に向けて、今回の共創プロジェクトの経験を活かし、さらなるレベルアップを果たした共創プロジェクトへの発展を目指したい。

チームネクストの解散総会を11月1日に実施

本紙『タクシージャパン』でもその活動が継続的に取り上げられ、報道されてきた「チームネクスト」が、その14年に渡る活動に終止符を打ち、解散することになった。

『チームネクスト』は、2012年8月に『タクシー産業の未来を切り開く』という志を基に、「タクシー産業をとりまく経営者、運行管理者、乗務員、利用者、報道機関、関連業者の交流の場を創造し、タクシー産業をとりまく新しいニーズを引き出し、そのニーズに応えるソリューションを創造し、もって需要の創造の産業の発展を図る」(チームネクスト設立趣意書)という目的

をもって、「研究、調査、実験、交流、広報」の活動を行うべく設立された任意団体であり、結果的に、海外研修(ロンドン、ニューヨーク、マニラ、モスクワ、北京)の5回を含む34回のセミナー合宿を行い、その役割を終えることになった。

初代の代表世話人である天野清美・つばめ自動車社長(名古屋)から「単なる勉強会で終わるな!」という提言を頂きながらも、残念ながら、その枠を大きく超えられなかったことが心残りではあるものの、初代の天野社長、二代目の兼元秀和・キャビック社長(京都)、そして、現代代表世話人である貞包健一・三ヶ森タクシー社長(福岡)、さらに世話人として、岩村龍一・コミユニティータクシー会長(岐阜)、加藤高立・千代田タクシー社長(静岡)、及川孝・フタバタクシー社長(宮城)、大野尚彦・ヒノヤタクシー社長(岩手)、また、寺前秀一・人流観光研究所長らに支えて頂き、14年間に渡る「セミナー合宿」の継続が出来たことは感謝に堪えない。

チームネクストの設立初期

から今日まで、チームネクストの活動を支援してくれた海野知之社長をはじめとするシステムオリジンのメンバー、そしてこの人の企画力、ネットワーク力、実行力が無かったら、チームネクストは存続できなかった野田昌太郎・事務局長(常葉大学経営学部准教授)には改めて心から感謝したいと思う。

また、11月1日開催の解散総会を含む全35回のセミナー合宿に参加されたすべての方に感謝を申し上げたい。幸い、チームネクストの志を継承してくれそうな「クロスタクシー」など若い経営者の集まりが誕生し、活発な活動をしてきているので、安心してその活動を終息したいと思う。

最後に2013年8月26日に52歳の若さで亡くなった東京交通新聞社の故・浅野茂記者にも感謝したいと思う。チームネクストの誕生を楽しみにし、闘病中でありながらも真摯に相談に乗ってくれた浅野さん無くしてチームネクスト誕生は無かったと思う。

皆さん、本当にありがとうございました。

(2025年10月26日記)